読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

山陽学園短大が「認定絵本士」の養成講座を開いています。記事を読み、質問に答えましょう。

「認定絵本士」なります

山陽学園短大（岡山市中区平井）は2022年度から「認定絵本士」の養成講座を開いている。短大生たちが絵本の特性や読み聞かせの手法を学び、知識や技能を有する〝スペシャリスト〟として将来、子どもに魅力を伝える役割を担う。講義の一環で手作りした絵本のポップ（販売促進広告）が2月末まで、岡山市の書店に並んでいる。（小川耕平）

「認定絵本士」の講座でポップ作りに取り組んだ山陽学園短大の学生

中国地方唯一 山陽学園短大が養成講座

認定絵本士は実務経験のある保育士や司書らを認定する「絵本専門士」養成の一環として、国立青少年教育振興機構（東京）が19年度に創設した。22年度は全国41の大学や短大で講座が設けられ、山陽学園短大は中国地方で唯一の講座開設機関という。

こども育成学科の男女30人が受講。年間30こま（1こま90分）あり、絵本には赤ちゃんから大人向けまでさまざまなジャンルがあることや、絵と言葉からなる特有の表現方法、引きつける読み聞かせの手法、子どもや大人の心に与える影響などについて学んでいる。

魅力伝える技能学ぶ

ポップは学生が好きな本を1冊選び、イラストや文字のフォントを工夫して1枚ずつ仕上げた。紀伊國屋書店エブリイ津高店（同市北区横井上）の児童書担当者が講師を務めた縁で、同店に絵本と一緒に陳列している。

主人公のウサギが着るワンピースの柄が次々と変わる「わたしのワンピース」を選んだ1年城八重華さん(19)は、愛らしいウサギを描き「次は何の柄になるかな？」と関心をくすぐる問いかけを記した。赤ちゃん向け「だるまさんが」を題材とした1年太田杏花さん(19)は、赤いだるまを丸ごとポップにし、作中に出てくるコミカルな擬音も文字で添えた。

「ポップ作りは作者の意図を深く考える機会になった。子どもたちと絵本の楽しさを共有できるような幼稚園の先生になりたい」と、擬人化されたクレヨンの絵本「くれよんのくろくん」のポップを作った1年橋本実咲さん(19)。

山陽学園短大の講座は23年度も開講される見通し。担当する磯野千恵教授は「子どもたちに読書の習慣が広がるよう、絵本の価値を伝える人材を育成していく」と話す。

ポップ作り書店に掲示

ポップ付きの絵本が並ぶ紀伊國屋書店エブリイ津高店のコーナー

1日付山陽新聞、おかくらプラス

Q1 「認定絵本士」の養成講座で、学生は何を学んでいますか。第1段落の言葉を使って答えましょう。

Q2 学生は絵本のポップ（販売促進広告）を手作りしました。第5段落を参考に、自分が好きな絵本を友達に紹介する短い文を書いてみましょう。

過去の問題はこちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。